

トピックス

サツマイモ

秋は収穫の季節、各地で収穫祭が行われます。

私の住む山の根でも、豊作に感謝してサツマイモ収穫祭が毎年10月に行われています。今年は10月25日(日)に、地域の子ども会と自治会と一緒に開催、50人ほどが参加して一山となるサツマイモを掘り起こしました。

収穫の一部は、住民協のみんなの食堂の食材となり、そして残りは参加した子供たちに分けてそれぞれの食卓に上ったことでしょう。

サツマイモは世代間で大分価値観が違ふようです。団塊の世代直前の人までは、コメに代わる食糧難時代の貴重な主食である「代用食」としての記憶が残っており、苦い思い出と共存しているでしょうが、昨今は美味しい食材として、焼き芋やサツマイモご飯として子供たちに喜ばれているようです。

これは時代背景と共に、品種改良が進んでサツマイモが格段と美味しい野菜に様変わりしたことも関係しているでしょう。特に焼き芋は、紅ハルカという焼き芋びつたりの品種が出来て今大人気です。

サツマイモは、南米原産、中国、琉球を経て薩摩藩に入り、そこで広がったために「唐芋」「サツマイモ」の名前が付きましました。江戸時代に救荒作物として、「甘藷先生」青木昆陽の努力で関東以北にも広がり、天明の大飢饉では多くの人の命を救ったといわれています。

戦中から戦後の食糧難の時代には、殆ど主食として作られていました。やせた土地でよく収穫できたから、校庭や空き地といえる空地には植えられて、飢えを凌ぐのに大いに役立ちました。

根に豆と同様に窒素を固定するバクテリアが共生しているため肥料不要、逆に窒素肥料を施すと葉と蔓ばかりが伸びて藨が太らない「蔓ボケ」を起こしてしまいます。

5月頃、日の当たる庭の片隅に植えておくと、手を掛けなくても秋には立派な芋が収穫できるので、楽しいお勧めの野菜です。

鈴木 為 之 (山の根在住)

編集後記

「新型コロナウイルス」に関する感染者状況、は今年の2月以降ほぼ毎日の様にメディアで取り上げられている。多分今年の流行語大賞候補はコロナ関連の言葉が並ぶのだろう。

世の中の動きはコロナ禍で微妙に変化しつつある、最近の空気の動きは「with コロナ」の中で如何に対応するか、コロナ感染のリスクは十分に意識しながら最大限の注意を払いつつ、経済活動のみならず社会活動も優先順位を考慮しつつ対応して行くという雰囲気になっているものと思う。人の活動はすべからず人と関わり合い、化学変化を起こして何かが生まれるものである。感染に関するデータ情報は日々蓄積されつつあり、賢く対応しながらある意味で優先順位を決めつつ腹をくく様な確信をもった行動が必要ではないかと感じ始めている。

事務局長 石 井 達 郎

久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協 ひろば

第43号 (準備会から通算第64号)

発行日 令和2年11月7日

発行所 逗子市久木2-1-1

久木小学校区住民自治協議会

発行人 田倉 由男

・・・本年度「住民協ひろば特別号」は

防災・減災特集 12月に発行です。・・・

最近の気候がいつもとは違うと感じておられる方が多いと思います。今年を振り返ってみても、長い梅雨、酷暑が続く夏、日本の至る所がかつて経験のない豪雨に見舞われる、台風の進路も従来とは異なる経路を通ることがある。こんな状況の中で私達は災害に対してどの様な対応を取れば良いのでしょうか。

現在例えば大きな地震等について、万一の場合何処に避難し、安否確認や、生活物資の情報のやり取りをどうするのか、地域の防災態勢は・・・。避難訓練は想定される災害リスクに対応できるものになっているのでしょうか？

コロナウイルス対応を含め、私達久木住民協は深刻化する災害リスクを、どう考え、どう対応するのかを特集した特別号を作成し全戸配布致します。地域全体で助け合い安全で快適な地域を目指したいものです。

事務局長 石 井 達 郎

令和2年10月度役員会

令和2年10月3日(土) 13:00~15:40 久木会館で20名(うち役員13名)が参加して開催さ

れました。主な議題は以下の通りです。

(1) 事務局からの連絡

①急傾斜地調査結果(レッドゾーン)告知について

各自治会の回覧必要部数について、事務局から横須賀土木事務所に連絡したこと報告、10月末に急傾斜地調査結果(レッドゾーン)が公表され、11月上旬に回覧用資料が配布予定にて、各自治会にて対応する旨要請された。尚、今回指定されるレッドゾーンは、住宅地に隣接する区画のみである旨報告。

②住民自治協議会連絡会(9/25)報告

助成金に関する規定の見直しが行われ、飲食ま

た飲食を伴うイベントには使用不可となった旨報告された、また、事務局から例えば防災地図作りの街歩きの際のお茶等、熱中症防止の観点からも事業費として認める様具申。(当該ケースは認められる模様)

③一般廃棄物処理基本計画及び災害廃棄物処理計画市民説明会の件

鎌倉市、葉山町及び逗子市とのゴミの共同処理についての協定が締結されたことによるごみ処理対応の変更及び災害時の廃棄物の処理対応についての説明会が市内で開催される予定に

て、各自治会からそれぞれ数名参加する様、事務局から要請。

④新型コロナウイルス感染症拡大防止に関わ (2) 審議事項

①久木住民協/令和 2 年度中間活動状況について

◆会計：配布資料の説明(令和 2 年度予算執行状況中間報告)が会計担当より説明された。今年度はコロナウイルス対応から事業が中止または、延期になっており、予算の消化は難しいとの報告があった。

◆ふれあい部会：活動報告については特集号に掲載する旨報告された。

◆こども部会：みんなの食堂は実施の目途がたっていない。今後は学校との接点を保ちながら、コロナ状況下での活動を探っていく。尚、現在久小の校長先生からの要請もあり、校庭の銀杏拾いを定期的に行っており、11月3日の「家庭菜園愛好者交流頒布会」(久木朝市)で販売、収益を久小に寄付する予定であるとの報告があった。

◆減災部会：地区防災拠点については、まだ不明確であり 10/8 に再度逗子市防災安全課と確認協議する予定。今後自主防災組織と意見交換しながら、組織の活動の明確化、統一化をして行きたいとの指針が説明された。

また、昨年度の街歩きで気が付いた危険箇所については、解消に向け、市と協議して行く予定との報告があった。

◆新拠点部会：「家庭菜園愛好者交流頒布会」を

る会議等開催に関する逗子市のガイドライン資料の配布があった。

7月、8月に実施、次回 11月3日に実施予定との報告有り。但し、参加の基準(出店者、販売物品の範囲など)を今後明確にしていく必要がある旨説明された。

◆久木会館：10月1日に 12月までの予約申し込みを行い、リピーターの利用者団体を中心に順調な予約状況であった旨報告された、またコロナ禍における会館の運営は、市のガイドラインに従うとともに、定員の 50%を継続し、会館からの感染者はゼロを目指す。

②「住民協ひろば特別号」について
特集号編集のコンセプトとともに、編集原稿についての説明があった。

◆原稿提出締め切り：

・各自主防災部の声：10月20日

・各部会報告 10月10日

◆広告：小林、石井を中心に広告勧誘実施

③その他

◆藤江正克会員から、介護ロボットの現状と課題などについて説明があった。

今後事務局との話し合いの中で、住民協の活動に関連する様な事があれば、改めて提示して貰うことになった。

◆事務局より、今後の住民協運営に関し、講演者を招き知見を広げる活動も取り入れていく予定である旨報告された。

「つながる・つなげる山の根自治会文化祭」

そしてつながった先に見えるもの

住民協 副代表 龍村 敦子

今年の山の根自治会文化祭は、10月25日(日)トーテムポール広場で開催しました。

自治会文化祭の始まりは熊野神社境内と社務所で文化芸術祭の名のもとに「歌って踊って、作品展示もしてある年は大茶会もやって」と、

今の高校生や中学生たちが小1や年長さんのころから始めましたからかれこれ 10 年位の歴史でしょうか。ここ 2 年は「たちゅんちゅん(龍村自宅)」での作品展でした。

さて住民がつながる行事がしづらくなった

今年です。熊野神社神事である「祭り」、8月恒例のトーテムポール夜サロン(ビアパーティ)が中止となり、おそらく年明けの「餅つき大会」も中止にせざるを得ないでしょう。文化祭は密にならない環境を考えながら「つながる・つなげる」をテーマにトーテムポール広場で開催してみようと思いました。

当日 25 日は申し分のない文化祭日和。子ども会の子どもの力作の▽の旗と高齢者のきらきらアートサロンメンバーの□の旗が、マスク着用のトーテムポールから四方につながられて人目を惹きました。文化祭としては初めての会場でテーマである「つながる・つなげる」を意識した作品展示にしましたが、食べ物のない作品展示だけの文化祭に 4 時間で 107 人が入場しました。この入場者数にはびっくりしています。



自治会のイベントは住民同士の老いも若きも男女の差もなく「つながれる」絶好の機会です。今回は若手ママ福田さんの砂絵ワークショップのおかげ

で一層多世代交流の趣が加速されました。

文化祭会場設営の男性スタッフの活躍や広場の事前の草抜きなど地味な仕事は言われなくても手が出る、自治会の特徴かもしれません。

文化祭終了の 14 時からは「山の根の里」での子ども会と合同のサツマイモ収穫祭、また収穫祭の流れから延期になっていた子ども会新入生歓迎会へと、再度広場でイベントがつながっていました。

なぜ私たちはつながりたかったり、つながた



かったりするのでしょうか。

つながった先には必ず何かがあります。その何かは個人の情緒的なものもあるでしょうし、団体間の組織や仕組みに発展するものもあるでしょう。

つながった先の例をあえてあげれば、班単位の減災のミニ集会、お互いさまを意識する「おむすび会」、若者の YYC 組織、など自治会が強制しない自主的に動き出す「つながり」がみえてきます。そのつながりは個人を支える生活支援(ゴミ出しなど)にもつながっていきます。自治会活動に無駄はありません。



今日も「私」も「みんな」も笑顔で過ごせますように。